

OB訪問

歯学部 歯学科編

本学歯学部卒業生12名を含む総勢29名の組織を率い、ジャンルを超えた歯科医療を発信する臨床家であり、この春修了式を迎える本学の社会人大学院生でもある青木さん。異彩を放つその活動から、新しい歯科医師像が浮かび上がります。

新札幌いった歯科 院長

青木 一太さん

(歯学部歯学科2001年卒業、
大学院歯学研究所博士課程2012年修了予定)



■ 開業歯科医師、母校に戻る。

青木さんは、本学歯学部を卒業、歯科医師免許取得後、アメリカ・ニューヨーク州に留学、帰国後札幌市内の歯科医院に勤務し、2009年に「新札幌いった歯科」を開業しました。多彩な趣味、旺盛な向学心、ジャンルを問わず張り巡らした人脈、グローバルな視野、歯科医師としての基本を重んじる姿勢をリンクさせ、同院を舞台にユニークな活動を展開していますが、さらに2008年には本学大学院へ社会人入学を果たし、この春、晴れの修了式を迎えます。

多忙を極める中、社会人大学院生となった理由を青木さんは2つ挙げます。「組織にアカデミズムが必要だと感じたことと、臨床と研究を両立させ当院の大きな力になっている非常勤歯科医師たちと同じ環境に身を置き、どういふ世界が見えるのか知りたかったことです」。研究活動には、博士号取得による自身のステップアップに加え、臨床に偏らず研究の視点も取り入れたバランスよい医院運営への期待が込められていました。

「治して当たり前」と同様、「開いていて当たり前」と思っています。元々、週末や祝日に医療機関が閉まっていることに違和感がありました。究極の理想・24時間診療は困難でも無休なら可能じゃないか、だったらできるところから始めよう」と。

まだ珍しい取り組みですが「奇をてらうつもりはない」と青木さん。開業前から医療の基本である患者さんとの対話、ニーズの把握を重視してきた結果の「開いている安心」。青木さんの考える医療のホスピタリティの表現の一つです。



ライトのハンドルなど手で触れる部分全てを覆うバリアテープ、器具を置くトレイも使い捨てする徹底した感染対策はADA(アメリカ歯科医師会)に基づきます。「いつかメイド・イン・ジャパンの医療を海外に発信できたら」という夢も、青木さんが語るリアルな響き。

同院が掲げる診療内容は歯科・小児歯科・歯科口腔外科・矯正歯科・審美歯科・スポーツ歯科・インプラントで、専門性をもった歯科医師も在籍し、患者さんのライフスタイルに合わせ、あらゆるニーズに応えています。今後も青木さんが新たなニーズを捉えれば、できることを探して実行に移すこと必至です。

■ 新しい歯科医院のモデルへ。

青木さんは歯科医院の新しいビジネスモデルを築きつつあります。専門性をもつ複数の歯科医師や大学病院2院との提携など充実の診療体制、新たな分野への挑戦、経営に関する専門家を揃えた取締役会による経営体制は、「単なる集団ではなく目的意識をもった組織」継続可能な事業を具現化するためのものです。働く環境づくり、勤務医のモチベーションを上げる仕組みづくりも着々と進めています。副院長・白石典史さん(本学歯学部2005年卒業)も「歯科でも今後、新しい勤務医としての働き方が増えると思います」と将来像を共有します。

■ めざすは職域のストレッチ。

青木さんは歯科医院のあり方に明確なビジョンをもっています。「歯科に留まらず様々な可能性があります。食育、スポーツ、審美的領域のホワイトニングはもちろん、ほうれい線を消すための顔の筋肉の運動までも守備範囲になるんです」。



青木さんがプライベートで築いたアスリートとの広範なネットワークが発展し、同院はコンサドール札幌のサポートデンティストを務めるなどアスリートのけが防止、パフォーマンス向上をサポートしています。2012年2月「TOYOTA BIG AIR」にもメディカルスタッフとして参加。写真左の平川直さん、右の西尾匡弘さんも本学歯学部卒業生です。

青木さん自身、新札幌いった歯科、どちらもいまは「日に新た」。1年前、いえ1カ月前のデータも参考にはならないめざましい進化の途上です。これからどんな話題を母校に届けてくれるのか、目が離せない卒業生の一人です。



「チームいった歯科」は常勤4名・非常勤14名の歯科医師(内12名が本学歯学部卒業生)、衛生士と消毒・滅菌専門員等スタッフ10名に事務長の大所帯。前列右が青木さん、左が副院長・白石さん。ユニフォームの色はその日の気分です。ゆったり快適なおフィスでは勉強会も頻繁に行われます。



大学院では生体機能・病態学系(高齢者・有病者歯科学)、安彦善裕教授のもとで研究を行いました。ピーク時は週に3日も研究室へ。「他の歯科医師、スタッフの支えのおかげです」と青木さん。

■ 「当たり前」の年中無休。

新札幌いった歯科はメディアにも度々取り上げられます。特に注目されるのが「年中無休診療」。昼休みもありません。先の年末年始も、市内全域、近隣市町から多くの患者さんが訪れました。